



京都大学新聞社  
 京都府左京区吉田京大構内  
 (075) 761-2054 直通  
 (075) 753-7531 (内線2571)  
 FAX (075) 761-6095  
 E-mail: kup@ops.dti.ne.jp  
 振替 01020-3-3909  
 1部100円

第1回「高木レクチャー」開催

新たな数学の創造めざす

日本数学会

十二月二十五・二十六日、京都大学数理解析研究所で第一回「高木レクチャー」が行われ、全国から約一四〇名の聴講者が訪れた。

「高木レクチャー」は、「日本現代数学の父」と呼ばれる高木貞治(ていじ、一八七五—一九六〇)の名にちなみ、日本数学会が今年三月に設置した。数学者の名前を冠した招待講演会は、日本初の試みであり、新たな数学の創造に寄与することを目的に、今後年二回、春と秋に行われる。開催地は基本的に、東京大学(春)と京都大学(秋)にならぬ見通しだ。

第二回となる今回は、フィールズ賞受賞者であるスミールシカゴ大教授(力学系)とリオンス・コレージュ・ド・フランス教授(応用数学)の両名のほか、ブロック・シカゴ大教授(整数論)、ウォザン・フランス国立科学研究所センター教授(代幾何学)という四名の研究者を招待した。高木貞治は、旧制第三高等学校(後の京大教養部)から東京帝国大学理科大学(現在の東大理学部)に進学。同大学を卒業後、三年間ドイツに留学し、代数的整数論などで知られるヒルベルトに師事した。帰国後

は、東大の助教授、教授として代数的整数論の研究で、「類体論を確立し、『高木類体論』(一九二〇)でヒルベルトの「類体」の概念を一般化。「数学のノーベル賞」とされるフィールズ賞の創設(一九三八年)にあたり、第一回選考委員として世界の五人の中の一人に選ばれたなど世界的な数学者として活躍した。招待講演会としては第二次世界大戦前に創設され、「数学原論」の執筆などで知られるフランスの数学者集団の通称「ニコラ・ブルバキ」を冠したブルバキセミナーや、ハーバード大学

が主催するCurrent Developments in Mathematicsなどが有名だが、今回世界的にも著名な高木の名を冠して、それらに匹敵する権

威ある講演会を日本にも作るという意図がある。小林俊行・日本数学会理事(京大数理解析研究所教授)は「内容は非常に高度

だが、研究者にとって新たなめざす話となる機会を提供したい」と話している。